

うだよなあ。そうはいったが、
どうしてそうなのか、わかった
ようでわからなかった。

善計の目つきは、内田吐夢監

督作品の「宮本武蔵」の高倉健
連隊をやっていたそうである。

夢は映画がよい時代に映画を撮
った。人間は、いつの時代に生

である。店で一夜を共にした男
から大金をもらった商売女が、
ある新聞記事で、奇特な施しを
する、かつての男の出世ぶりを
知り、男を訪ねる。男はかつて大
犯罪者であった。男は過去を知
っている女を殺害する。女は奇

演じる佐々木小次郎のようであ
った。また高倉健で恐縮ではあ
る。しかし、内田吐夢の「宮本

横浜の愚連隊はジョンとかサム
とかジャックとか外国人名を名
乗ったそうである。本名内田常

まれたかで決まるものなのかも
しれない。それは健さんにも寅
さんにもいえる。

特別な男の記事が載っている新聞
の切り抜きを懐に持っていた。

内田吐夢の男と女

食うわけにはいかない。稽古場
は全員が絶食状態となった。わ
たしは稽古中には食欲がなくな
る。稽古が終了しての居酒屋の

酒と焼き鳥だけの日々である。

武蔵」5部作の佐々木小次郎の

後の内田吐夢である。これは内

「飢餓海峽」にも出演している。

善計に「メロンは高いから、ト
マトにすればいいじゃないか」

登場は鮮烈であった。わたしも
映画やテレビでいろいろな佐々

田吐夢の伝記で知った。

作家は意識無意識にかかわら
ず自分を作品のどこかに投影す

年の夏、わたしは水上勉氏と乗
鞍高原で会っている。それが初
対面であった。木村光一氏の地
人会が6人の作家による一人芝

という「メリカシーのない人
だなあ」といった目つきでわた

気と苦味とプライドにあふれた
佐々木小次郎ほどの小次郎を見

るものらしい。内田吐夢監督の

刑事役である。仁俠映画のや
くざ役で流行っていた健さんが

居を企画した。宮本研氏や井上
ひさし氏、外国の劇作家A・ウ

しを睨んだ。「メロンでなくて
はいけないのです」「それはそ

たことがない。あれは本物の佐
々木小次郎よりも佐々木小次郎

映画の男と女はどことなく物悲
ましい。内田吐夢が「宮本武蔵」

らすじを書く余裕はない。しか
し、男と女を描いて秀逸な作品

乗鞍でそのシンポジウムがあっ
た。

はいいないのです」「それはそ

々木小次郎よりも佐々木小次郎

の5部作を撮るエピソードはす

し、男と女を描いて秀逸な作品

た。